

2026 年度大学院入試  
前期日程（一般入試）

1. 健康の定義

【出題の意図】

保健医療福祉職にとって、WHO 憲章前文の第 1 原理である健康の定義は重要である。本問では、健康の 3 つの要素に絞り、それらの関連について理解しているかを問うものとした。看護師国家試験出題基準には、必修問題に「目標 1. 健康および看護における社会的・倫理的側面について基本的な知識を問う」と明示されている。本問は、その大項目「1. 健康の定義と理解」の中項目（出題範囲）「A. 健康の定義」に相当する。小項目にも「世界保健機構〈WHO〉の定義」とされ、健康の 3 要素は看護師として基本的に理解すべき内容であるため本問を出題し、要素間の関連の理解を保健師の学習の準備性のひとつとしてみる。

【解答に求める要点】

- 1) 身体的、精神的、社会的の解答を想定するが、原文（physical, mental, social）の意味合いを表せば正解とする。
- 2) 身近な具体例を挙げているか、要素同士の関連について理解した上で適切に説明しているか、これらを解答に求める要点とする。

2. 事例問題

【出題の意図】

本問では、看護師国家試験に出題された事例を用いて、少ない情報の中から看護職として対象のポジティブな面をとらえる力と、対象に適した具体的対策を考案して表現する力をみる。看護基礎教育では、1 年目から看護介入すべき対象の問題抽出の重要性を教育される。そのため、強みという対象のポジティブな面をとらえることが弱くなりがちである。しかし、強みに着目する意識は看護職にとって重要であり、強みを活かした看護の展開により「対象自身が生活習慣を主体的により早期に改善し、それを継続する」ことが可能となる。そのため、保健師教育への準備性の主要部分の評価として、本問を出題した。

【解答に求める要点】

- 1) 対象の強みを見つけて強みと言える理由を説明し、今後の生活習慣改善にどのように活かすことが可能か、自分の考えを論理的に述べる解答を求める。事例文からみえる強みは、高血圧を指摘されて生活習慣改善を勧められた時に「週末にスポーツジムで運動するようになった」ことである。健康を意識して運動を生活に入れ込んだのは、

対象の強みと言える。この経験は、再び前向きになって自らが可能な生活を考えて実行することにつながりやすい。また、「これ以上生活を変える自信はありません」の発言には、ジムに通い続ける意思が読み取れ、強みの一つととらえることができる。加えて、自分の現状を理解し、かつ人に言う勇気を出したとも解釈でき、この姿勢は習慣改善に向けた支援者や仲間を見つけることにつながりやすい。

- 2) 今の対象に適切な「重視する看護師の姿勢」と「具体的対策」を期待する。具体的対策には、解答した「(対象の) 強み」と「重視する看護職の姿勢」が反映されていることを期待し、対象の思いや希望を尊重する姿勢のある対策の場合、評価が高くなる。